

地方での生計維持を目指した養蜂振興プロジェクト (2019年～2022年)

大草原を舞台に“養蜂”の周知と普及を目指して

■ 実施団体：

公益社団法人国際農林業協働協会
(JAICAF)

■ 対象国・地域：

モンゴル国ダルハンオール県

■ 現地カウンターパート

食糧農牧業軽工業省畜産政策実施調整局



■ 協力内容：

1. ミツバチ飼育技術指導による「飼育技術マニュアル」の検証・改訂
2. ハチミツ品質管理指導による「品質管理マニュアル」の検証・改訂
3. 販売方法と販路を多角化し「養蜂経営マニュアル」の作成
4. 他地域でマニュアル3種を活用するための手引書の作成

■ 団体のこれまでの取り組み：

先行事業となる草の根技術協力事業「養蜂振興による所得向上プロジェクト」を、セレンゲ県で実施（2015年～2018年）。対象養蜂家に対して、ミツバチの飼育技術の指導、ハチミツの生産管理指導等を行い、ハチミツの生産性・品質の向上、また養蜂所得の増大に貢献した。

■ 事業実施の背景：

モンゴルでは、人口や経済の首都一極集中は激しく、地方において生活や所得を安定させ、かつ、限りある自然環境の保全につながる産業の開発が喫緊の課題となっている。そのような中、特別なインフラ設備や機材を必要とせず、環境にも優しい「養蜂」に着目。先行事業では、ハチミツの生産性と品質の向上・養蜂人材の育成を図り、対象地域の採蜜量や品質は大きく向上した。本事業では、対象が限定的であった先行事業の成果を、さらに他地域にも普及するべく、各種マニュアルの作成・検証に加えて、マニュアルを正しく活用するための「手引書」を作成し、地方における養蜂振興の標準的手法の策定を目指した。

モンゴルの課題と成果

課題① 地方には、遊牧以外の持続可能な産業がなく、先行事業での技術移転も対象が限定的…

成果① 「養蜂の手引書」を作成し、技術普及の標準的手法を整備。地方産業としての発展に期待！



⇒ 手引書は、養蜂関係機関等に配布された他、各所ホームページでもデータ公開され、広く閲覧可能に。2020年に新設されたボルガン県農業専門学校養蜂コースでは、手引書を教科書として導入！

課題② 養蜂家がハチミツを売る場所・手段が乏しい…

成果② JICA技術協力プロジェクトと連携し、直売だけでなく、ハチミツメーカーへの卸売りを推進！



⇒ ハチミツの安定供給と養蜂家の経営の安定に貢献
⇒ 販促のため養蜂家自ら消費者ニーズ調査を行い、生産・販売へのモチベーションが向上！

事業の波及効果

！ 日本の養蜂現場にも“変革”の風をもたらす！

本事業で技術移転した養蜂技術を日本の養蜂家に紹介したところ、大きな反響が！

- ⇒ ミツバチの巣箱の設計次第で、ハチミツの質・量を飛躍的に向上させることが可能
- ⇒ ミツバチの生態に即した技術により、日本でも生産性向上や病害虫の抑制を実感する養蜂家が多数！

！ 日本からの“モンゴル養蜂ツアー”が企画！

⇒ 本事業をきっかけに、旅行代理店と組んで養蜂現場を巡る養蜂づくりのモンゴルツアーを企画。2023年夏、催行決定！